

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	歴史関係講座事業 (主要事業)							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	文化財保護係	評価票作成者	文化財保護担当係長 近藤よし江
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			③基本施策	文化財の保護	コード	4-1-3
					④単位施策 (中)	文化財保護の担い手づくり	コード	4-1-3-2
	②項	生涯学習の推進			⑤単位施策 (小)	史跡ガイドの養成	コード	4-1-3-2-2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	文化財に関心のある市民		意図 (対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	文化財関係講座の受講者が講師の役割を担う。			
1-5 事務事業の内容	文化財に関連する講座を継続して実施することにより、受講生の知識を深める。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 歴史関係、自然関係の公民館講座を開催した。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 講師の後継者を必要としている。	市民ニーズの認識 指定文化財をはじめ歴史や自然に対する関心が高まってきている。
	平成19年度	「近世文書を読む」と題した講座を開催するなど、従前よりレベルアップを図った。	より多様で、よりレベルの高い講師を育成する必要がある。	豊明市の歴史や自然のみでなく、もう少し広い範囲の郷土史や自然に関心が広がっている。
	平成20年度	昨年に引き続き「近世文書を読む」を開催し、更なる向上を図った。	レベルの高い講師を、できるだけ多く育成する必要がある。	豊明市の歴史や自然のみでなく、もう少し広い範囲の郷土史や自然に関心が広がっている。
	平成21年度	桶狭間合戦450年に向けて、観光ボランティアの養成について2年前から産業振興課と協議してきた。	郷土の文化財の価値を行政のみでなく、市民とともに広めていくことが重要である。	観光ボランティアの定着により、市民の関心が一層高まっていく。
	平成22年度	「近世文書を読む」には、観光ボランティアの積極的な参加があった。桶狭間の戦い450年記念講演会を実施 (8/15 (日) 参加者210人)。観光ボランティアの活動が、市内の文化財全体に対応できるように育成することが必要。観光ボランティアの定着により、市民の関心が一層高まっていく。		
	平成23年度	無形民俗文化財の保存会の方を講師に招き講座を実施、ビデオや実技を交えながらわかりやすく学ぶことができた。参加者には伝承の大切さも理解していただいた。「近世文書を読む」は熱心なリピーターから初心者まで関心が高い講座である。ナガバノイシモチソウ講座は、豊明高校生徒に多く参加していただいた。次世代に繋げたい。		
	平成24年度	文化財保護委員が講師となり、指定文化財を始めとする文化財や史跡を巡る講座を行った。文化財に関心を寄せるとともに、知りたかった事を確認している参加者も見受けられた。次の講師の担い手育成に繋げたい。		
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値 (単位)	後期目標値 (単位)	指標の説明
	文化財講座の開催回数 (回/年)	16 (回/年)	20 (回/年)	講座を通じて受講者の知識の涵養を図る。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移 (アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	60 (人)	55 (人)	84 (人)	49 (人)	51 (人)	41 (人)	33 (人)			
	直接事業費 b (千円)	50	50	70	30	32	114	62			
	人件費 c (千円)	141	141	144	24	24	38	84			
	合計コスト d (b+c) (千円)	191	191	214	54	54	152	146			
単位コスト d/a (千円)	1人当たり 3.2	1人当たり 3.5	1人当たり 2.5	1人当たり 1.1	1人当たり 1.1	1人当たり 3.7	1人当たり 4.4	1人当たり	1人当たり	1人当たり	

アウトプット実績 (活動数値) の補足説明 → 活動実績：講座の受講者数
 直接事業費：講師謝礼 62千円
 人件費： 84千円 (7回延べ28h 3,000円/h)

2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績(回)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度(%)	11	11	9	11	5	11	7		
		55.0	55.0	45.0	55.0	25.0	55.0	35.0			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己 分析)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	B	B	B			

- 4段階評価結果
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
 ①必要性(必要な事務事業であるか)
 ②公共性(公が実施する意味があるか)
 ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	後継者の育成		講座内容の検討
平成19年度	郷土の歴史と自然を、次世代に伝える指導者を育成する必要がある。		市民が望む歴史講座、自然講座とは何かを知る方法を探す。	「近世文書を読む」と題した講座を開催するなど、従前よりレベルアップを図ったが、受講者が少数であったのはPR不足であったと思われる。
平成20年度	郷土の歴史と自然を、次世代に伝える指導者を育成する必要がある。		従前の講座にとらわれず、市民が興味を持つ講座を開催する。	講座の開催日数は減ったが、参加者は多くなったのでよかったと思う。また、「近世文書を読む」も市民に認知されたと思われる。
平成21年度	観光ボランティアの裾野を広げていくために、郷土歴史検定の実施を検討していく必要がある。		観光ボランティアの質的向上を図る。	観光ボランティア養成講座を実施した。
平成22年度	観光ボランティアの裾野を広げていくための取り組みが必要。観光ボランティアの情報量や知識の向上を図る。近世古文書を読む講座では、観光ガイドボランティアのメンバーにも参考になったと思われる。			
平成23年度	無形民俗文化財の理解と継承のため、保存会から講師を招いた。受講生の関心度は高かった。講師の育成が課題。			
平成24年度	文書の解読に対する関心も、市内に残る文化財に対する関心も高かった。講師の育成が課題。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	B	一定の活動の維持や、講師の育成方法を検討すること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			